議会の虫めがね

伯耆町の農業青年が語る！第２弾

遠藤達也さん（富江）
花壇苗を生産し市場を開拓

宮﨑美知子さん（大平原）
和牛の放牧で荒廃地を再生

舘野千家子さん（溝口）
白根和加子さん（畑池）
樹苗ポットの生産で森林の再生

農業に入ったきっかけは

遠藤さん もともと農家の生まれ。小さい頃からいつかはと思っていた。

大学時代の恩師の「帰郷して農業を」のことばが後押し。父がビニールハウス一棟を用意してくれてミニトマトからスタート。普及員のアドバイスもあり切り花の栽培へ転換。今は花壇苗を年間で栽培している。

宮﨑さん 夫は高校の体育の教師でしたが、「農業始めよう」の一言で、夫のふるさとへ。私はメキシコに三年間、青年海外協力隊として現地のマヨ族と生活をともにしました。

電気も水道もガスもない環境のなか、一緒に毎日四〇トルッの水を担いで二時間かけて運ぶ、この体験が私の人生を変えた。

現在、牛の放牧をして荒地が生まれ変わり、きれいになって地域の皆さんが喜んでおられます。

私は今の生活に感謝しています。

遠藤達也さん
（県スキー連盟常任理事）

舘野さん 大阪の専門学校を出て就職。十七年間過ごしました。小さい頃からスキーに親しんでいて、ふるさとに帰って父の樹苗業の手伝いをしよう、冬は大好きなスキーをもっと楽しもうということで（笑い）。

白根さん 地元で就職していましたが、姉が帰郷して家業を手伝うようになり、それがきっかけで私も一緒に。

以前は針葉樹が中心でしたが、スギとかヒノキの苗が減ってきて、広葉樹のポット苗の栽培が始まり、今では数万本を出荷するようになりました。

今、思っていることは

遠藤さん 私も冬はスキーを楽しんでいます。今、力を入れているのは営業です。品物をセリにかければワンポット100円になるものもあれば1円しかならないものもあります。これを全て100円になるよう、小売業者と常に対話して情報を入手、注文販売に力を入れています。

農業は儲からないと面白くない。この信念で頑張っています。

白根和加子さん（妹）　舘野千家子さん（姉）　宮﨑美知子さん（農業委員）

宮﨑さん メキシコでの体験で、まず毎日食べれることに感謝です。そして、貧しいことは不幸ではないということを学びました。

私たちは新規就農ということで県や町から支援をいただき牛舎を建てることができました。今、私たちより若い世代の方々が農業を目指して研修をされています。ともに頑張っていきたい。

舘野さん 竹林を伐採し整備されたところへ植える苗も作っています。松も枯れて放置され、山が荒れて水害などの被害もあります。そうした山に苗を植えて災害の少ない山にしたい。

白根さん 松くい虫に強いとっとりパワー松（赤松）をもっと広めたい。

※とっとりパワー松
松くい虫被害で生き残った松に、松を枯らす線虫（マツノザイセンチュウ）を接種し、松に抵抗性を持たせた品種。

取材協力ありがとうございました。

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

編集後記

本誌が皆さまのお手元に届くころには、伯耆大山の紅葉シーズンに入っているのではないかと思われます。

十月十二日(日)、十三日(月)にお隣の大山町で開催予定だった「とっとりバーガーフェスタ二〇一四」は、台風十九号の接近により延期となり、代替日として十一月八日(土)九日(日)に開催される運びとなりました。

我が伯耆町からも出店者が三団体もありますので、紅葉と食の秋を楽しみに、ぜひ会場となっている大山町・大山博労座駐車場にお出かけくださいませ！

（杉本大介）

【編集】
議会広報常任委員会
委員長　勝部　俊徳
副委員長　杉本　大介
委員　渡部　勇
委員　篠原　天
委員　永井　欣也
委員　乾　裕

■発行／鳥取県西伯郡伯耆町議会　TEL(0859)68-3112　印刷／冨士印刷有限会社